

## 芸術（音楽）

### 1 高等学校学習指導要領の改訂に向けて（中央教育審議会答申より）

#### (1) 改善の方向性

##### ア 現行の学習指導要領の課題

中央教育審議会答申では、芸術科（音楽）の課題を次のように整理している。

- ・感性を働かせ、他者と協働しながら音楽表現を生み出したり、音楽を聴いてそのよさや価値などを考えたりしていくことの充実
- ・我が国や郷土の伝統音楽に親しみ、よさを一層味わえるようにしていくことの充実
- ・生活や社会における音や音楽の働き、音楽文化についての関心や理解を深めていくことの充実

##### イ 課題を踏まえた芸術科（音楽）の目標の在り方

芸術科（音楽）で育成を目指す資質・能力については、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性」が三つの柱として示され、それらが相互に関わり合いながら一体となって働くことが重視されている。このため、必ずしも、別々に分けて育成したり、「知識・技能」を習得してから「思考力・判断力・表現力等」を身に付けるといった順序性を持って育成したりするものではないことに留意する必要がある。また、「知識」については、単に一般概念の習得にとどまるものではなく、音楽を形作っている要素などの働きについて実感を伴いながら理解し、表現や鑑賞に生かしたり、表現や鑑賞の活動を通して、自己との関わりの中で理解するなど、生きて働く概念として習得されたり、学習過程の中で知識が更新されたりすることが重要である。「技能」についても、一定の手順や段階を追って身に付く個別の技能のみならず、変化する状況や課題に応じて主体的に活用できる技能として習熟・熟達していくということが大切である。

#### (2) 具体的な改善事項

##### ア 教育課程の示し方の改善

芸術科（音楽）において資質・能力を育成するためには、「音楽の見方・考え方」を学習の支えとして、表現領域の学習では、音楽表現について創意工夫し、音楽表現に対する思いや意図を持ち、音楽で表現すること、また、鑑賞領域の学習では、音楽の良さや美しさなどについて自分なりの考えを持ち、味わって聴くことを、それぞれの学習過程として適切に取り入れることが大切である。こうした学習過程を通して、生活や社会の中の音や音楽の働きの視点から学んでいること、学んだことの意味や価値を自覚できるようにし、このことによって、音楽文化についての理解を一層深めることが重要である。

##### イ 教育内容の改善・充実

生徒たちが置かれている生活環境がこれまでと大きく変わってきていることから、我が国のよき音楽文化を伝える教材を扱ったり、実際にものに触れて感じ取ることや体を使って体験する活動を重視したりするなど、学校教育において取り

上げなければ出合うことのない教材や経験することのない活動を、生徒たちに提供することも、学校教育の役割の一つである。

#### ウ 学習・指導の改善充実－「主体的・対話的で深い学び」の実現－

##### (ア) 「主体的な学び」の視点

「主体的な学び」の実現のためには、音楽によって喚起されるイメージや感情を自覚させることが大切である。このことは、イメージや感情を喚起させる要因となった音楽的特徴や音楽の歴史的・文化的背景を考えることの原動力となり、主体的な音楽表現や鑑賞につながっていく。また、音や音楽が自分の感性及び人間の感情にどのような影響を及ぼしたのか考えることで、学んだことの意味や価値を自覚し音楽を生活や社会に生かそうとする態度が生まれやすくなり、次への学びにもつながっていく。

##### (イ) 「対話的な学び」の視点

「対話的な学び」の実現のためには、「音楽的な見方・考え方」を働かせて表現・鑑賞する過程で、互いに気付いたことや感じたことについて言葉で伝え合い、音楽的な特徴を共有したり、感じ取ったことに共感したりする活動が大切である。これらの活動は、客観的な根拠を基に他者と交流し、自分なりの考えを持ったり、音楽に対する価値意識を更新したり広げたりしていく過程に学習としての意味がある。

##### (ウ) 「深い学び」の視点

「深い学び」の実現のためには、生徒が音や音楽と出会う場面を大切にし、「音楽的な見方・考え方」を働かせて、音楽と主体的に関わることができるようにすることが重要である。その際、知覚・感受したことを言葉や身体の動きで表したり比較したり関連付けたりしながら、要素の働きや音楽の特徴について他者と共有・共感できる活動を位置付ける。このことが、音楽文化を理解すること、表現意図を持つこと、楽曲や演奏のよさや美しさ、自分や社会にとっての音楽の意味を価値判断するための音楽的な思考・判断を促し、学習を深めることにつながる。

#### 【芸術科（音楽）の「見方・考え方」】

感性を働かせ、音や音楽を、音楽を型づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、芸術としての音楽の文化的・歴史的背景などと関連付けること。

## 2 資質・能力を育成する学習指導の改善・充実

前項で述べられた芸術科（音楽）の目指す資質・能力を育成するためには、一定の手順や段階を追って身に付く個別の技能の習得だけではなく、音楽的な見方・考え方を支えとして、変化する状況や課題に応じて主体的に活用できる技能として習熟・熟達していくことが重要である。

ここでは、歌唱領域において、生徒が主体的に学ぶ態度を育成するために、習得し

た技能や楽語等を手がかりとして活用し、音楽と歌詞との関わりについて深く考え、「主体的・対話的で深い学び」の実現を図った学習指導計画の例を示す。

本計画では、第1時及び第2時で知覚、感受した混声四部合唱の音楽的特徴やよさを前提として、第3時で作品の諸要素を楽語、楽譜、歌詞という観点から多角的に思考、判断し、言語活動を通して表現意図について主体的に考え、グループ学習を通して対話的な活動により発展させる学習プロセスを経ている。また、第4時は、それまでの学習を元により深い合唱表現を探求する活動へ繋げることとしている。

このように、生徒の活動と思考・判断について、場面を明確に設定し実践することで、以後の課題や生徒の実態を適切に把握し、次の実践の参考となる評価を含めたPDCAサイクルを有効に運用することができる。

＜単元における指導と評価の計画の例＞

題 材 名	音楽と言葉の関わりを感じて表現しよう（音楽Ⅱ）		
教 材	あなたはどこに（作詞：和合亮一 作曲：新実徳英）		
題 材 の 目 標	作品の歌唱を通して、歌詞が表す心情や曲想に関心を持ち、旋律、テクスチャ、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じしながら音楽表現を工夫し、必要な技能を身に付けて歌うことができる。		
対応する学習指導要領の指導事項	A表現（1）歌唱 アウエ		
共通事項に相当する事項	速度、旋律、テクスチャ、強弱		
題材の評価規準			
音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	
①混声四部合唱の響きやそのよさに関心を持ち、それらを生かした表現活動に主体的に取り組もうとしている。 ②日本語の表現や味わいと、歌詞の内容や楽曲の背景との関わりに関心を持ち、イメージをもって歌う学習に主体的に取り組もうとしている。	①速度、旋律、テクスチャ、強弱等を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、曲想を歌詞の内容や楽曲の背景と関わらせて感じ取り、どのように歌うかについて表現意図を持っている。 ②混声四部合唱の特徴を生かした音楽表現を工夫し、どのように歌うかについて表現意図を持っている。	①混声四部合唱の特徴を生かした音楽表現をするために必要な発声を身に付け、創造的に表している。	
題材全体の学習指導		評価の位置付け	
時	主な学習活動	○評価規準 【主な評価の対象】	
		音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫
1	「あなたはどこへ」の歌唱を通して、歌詞の内容や楽曲の持つ特質や雰囲気を感じ取る。	①歌唱への主体的な取組【観察】	
2	前時の学習を発展させ、合唱の特徴的な表現技能を身に付ける。		①創造的な音楽表現の技能【観察】
3	音楽と歌詞の関わりについて、楽語や楽譜を手がかりに表現意図を考えワークシートにまとめる。  作成したシートをグループで共有し、表現について検討する。		①表現意図の探求【ワークシート】

4	前時の検討内容をクラスで共有し、合唱表現を工夫する。	②イメージをもって歌う学習への取組【観察】	②合唱表現の工夫【観察】	
---	----------------------------	-----------------------	--------------	--

〈学習指導案の例〉 本時の展開（4時間のうち3時間目）

【ねらい】 楽語や楽譜を手がかりに、旋律、テクスチュア、強弱の変化を知覚し、それらの音楽的要素と歌詞との関わりについて感受しながら、どのように歌うか具体的な表現意図を考える。

・ 学習活動（学習形態） □ 評価規準

・ 「あなたはどこに」の歌唱を通して、前時までの学習内容について想起する。（全体）

・ 「あなたはどこに」で用いられる楽語について、ワークシートに整理する。（個人）

課題1：楽語について整理しよう

表情（楽想）に関する記号		速度に関する記号	
<i>legato</i>	幅広くゆるやかに	<i>accel.</i>	たたくたたく速く
<i>sotto voce</i>	半分の声	<i>piu mosso</i>	よりいそぐ

主体的な  
学び

・ 個々の生徒が歌詞（楽曲）の前半又は後半を選択し、音楽的内容と歌詞の関わりについて考え、表現のポイントについて考える。（個人）

課題2：楽譜や整理した楽語を参考に、歌詞の前半（A）または後半（B）を選択し、表現のポイントを考えてみよう

A	B
あなたは どこにいますか あなたの心は 風に吹かれていますか	いのちをかけるということ 私たちの故郷（こきょう）に

教科書の楽語集やICTを活用するなど生徒が主体的に学習できるように構成する。

生徒が様々な視点から表現意図について考えることができるよう、適宜ポイントを例示する。

速度は？

発想記号は？

声部は？

強弱は？

選択した歌詞【A・B】

サビの「B」の部分に「いのちをかける」という歌詞の「いのち」を「命」として捉え、Aで女性ならではの遠くへ行く所について互いに探している事を意味している。div.が用いられるが、Bで命を懸けて巡り合うようにunis.（ユニゾン）で歌うように演奏する。

【生徒の感想】

対話的な  
学び

深い学び

・ 考えた表現意図を共有し、他者の意見によって気付いたことをまとめ、表現の方向性を整理する。（グループ）

創①  
速度、旋律、テクスチュア、強弱等を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、曲想を歌詞の内容や楽曲の背景と関わらせて感じ取り、どのように歌うかについて表現意図を持っている。

話し合った表現意図について、第4時ではクラス全体で共有し、実際に合唱し、試行錯誤を通してよりよい表現を追求する深い学びへと発展させる。

## 芸術（美術、工芸）

### 1 高等学校学習指導要領の改訂に向けて（中央教育審議会答申より）

#### (1) 改善の方向性

##### ア 現行の学習指導要領の課題

中央教育審議会答申では、芸術科（美術、工芸）における課題を次のように整理している。

- ・ 感性や想像力等を豊かに働かせて、思考・判断し、表現したり鑑賞したりするなどの資質・能力を相互に関連させながら育成することの充実
- ・ 生活を美しく豊かにする造形や美術の働き、美術文化についての実感的な理解を深め、生活や社会と豊かに関わる態度を育成することの充実

##### イ 課題を踏まえた芸術科（美術、工芸）の目標の在り方

芸術科（美術、工芸）で育成を目指す資質・能力については、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性」が三つの柱として示され、それらが相互に関わり合いながら一体となって働くことが重視されている。このため、必ずしも、別々に分けて育成したり、「知識・技能」を習得してから「思考力・判断力・表現力等」を身に付けるといった順序性を持って育成したりするものではないことに留意する必要がある。また、「知識」については、一人一人が感性などを働かせて様々なことを感じ取りながら考え、自分なりに理解し、表現したり鑑賞したりする喜びにつながっていくものであることが重要であることから、形や色などの働きについて実感を伴いながら理解し、表現や鑑賞などに生かすこと、芸術に関する歴史や文化的意義を、表現や鑑賞の活動を通して、自己との関わりの中で理解することについて、発達の段階に応じて整理していく必要がある。「技能」についても、一定の手順や段階を追って身に付く個別の技能のみならず、変化する状況や課題に応じて主体的に活用できる技能として習熟・熟達していくということが大切である。

#### (2) 具体的な改善事項

##### ア 教育内容の改善・充実

##### (ア) 伝統文化の尊重と実感的な理解

グローバル化する社会の中で、生徒たちには、芸術を学ぶことを通じて感性等を育み、日本文化を理解して継承したり、異文化を理解し多様な人々と協働したりできるようにすることが求められている。このため、美術や工芸の伝統や文化を尊重し、実感的な理解を深めていくことが重要である。

##### (イ) 生活の中で実感が持てる授業

芸術系教科・科目においては、生徒たちが、世の中にある美術、工芸等と自分との関わりを築いていけるようになることを大切にしている。しかし、授業の中で、なぜそれを学ばなければならないのかということを実感することについては、教員の意識としても、生徒たちの意識としても弱いのではないかという指摘もなされている。このため、授業で学習したことが、これからの自分たちの生活の中で生きてくるといった実感を持てるよう、指導の改善・充実を図ることが求められる。

#### (ウ) 体験を重視した学習

生徒たちが置かれている生活環境がこれまでと大きく変わってきていることから、実際にものに触れて感じ取ることや体を使って体験する活動、伝統や創造の視点から造形や美術を捉える活動などを重視したり、実感を伴う学習にするため畳や床の間といった伝統的な生活環境を活用したりするなど、学校教育において取り上げなければ出合うことのない教材や経験することのない活動を、生徒たちに提供することも、学校教育の役割の一つである。

#### (エ) 言語活動の充実

芸術系教科・科目においては、思考力・判断力・表現力等を高めるため、言語を用いた言語活動を行うほか、言語以外の方法（音や形、色など）を用いた言語活動なども行っている。これらは表現や鑑賞の活動を深めていく際に重要な活動であり、芸術系教科・科目の特質に応じた充実に図ることが求められる。

### イ 学習・指導の改善充実－「主体的・対話的で深い学び」の実現－

#### (ア) 「主体的な学び」の視点

「主体的な学び」の実現のためには、主題を生成したり構想したりする場面、創造的な技能を働かせる場面、鑑賞の場面のそれぞれにおいて、形や色彩などの造形の要素の働きなどに意識を向けて考えることや、対象の事象を造形的な視点で深く捉えることが必要である。加えて、自己の生成した主題や対象の見方や感じ方を大切にして、創造的に考えて表現したり鑑賞したりする学習の充実に図り、それらの学習活動を自ら振り返り次の学びにつなげていくことが重要である。

#### (イ) 「対話的な学び」の視点

「対話的な学び」の実現のためには、表現や鑑賞の能力を育成する観点から、「造形的な見方・考え方」を働かせて、美術の創造活動の中で、形や色彩などの造形の要素の働きなどについて理解し、美術作品や互いの作品について批評し合い討論する機会を設け、自他の見方や感じ方の相違などを理解し、自分の見方や感じ方を広げるなどの言語活動を一層充実させることが重要である。

#### (ウ) 「深い学び」の視点

「深い学び」の実現のためには、中学校美術科における学習を基礎にして、「造形的な見方・考え方」を働かせて、芸術としての美術と豊かに関わる学習活動を通して、主体的に学ぶ意欲を高め、豊かに主題を生成して発想や構想をし、創造的な技能を働かせて作り出す表現の能力と、美術作品や文化遺産などを様々な観点から鑑賞して、そのよさや美しさを創造的に味わう鑑賞の能力を相互に関連して働くようにすることが大切である。加えて、お互いの見方や感じ方、考えなどを交流することで、新しい見方や価値などに気付き、表現や鑑賞の能力を深めていくような学習により教科・科目において育成する資質・能力を確実に身に付け、それらを積み重ねていくことが重要である。

#### 【芸術科（美術、工芸）の「見方・考え方」】

感性や美的感覚、想像力を働かせ、対象や事象を、造形的な視点で捉え、新しい意味や価値をつくり出すこと。

## 2 資質・能力を育成する学習指導の改善・充実

「美術 I」の授業において、他者と共有・共感しながら対象や事象を「造形的な視点」で捉えることを深めるための実践例を示す。

<単元における指導と評価の計画の例>

単元名	日本の伝統的な文様を鑑賞し、学んだことを図学などの知識と合わせながら、独創的で新しい文様を制作しよう。						
指導事項	A表現（2）デザイン 及び B鑑賞						
題材名	「コンパスを利用して新しい円弧文様を制作する」						
単元の目標	(1) 材料や用具、表現方法を生かして、創造的に表わすことができる。 (2) 生活の中の造形や美術文化に関心をもって、実践的な理解を深めることができる。 (3) お互いの見方、感じ方、考えなどを交流することで、新しい見方や価値などに気づき、表現や鑑賞の能力を深めることができる。						
評価の観点	関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力			
	美術の創造活動の喜びを味わい、デザインの多様な表現に関心を持ち、主体的に主題を生成して、構想を練ったり、目的や計画を基に表現しようとしている。	感性や想像力を働かせて、目的や機能、美しさなどから主題を生成し、表現形式の特性、形や色彩などの造形要素の働きを考えて創造的な表現の構想を練っている。	創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて、表現方法を工夫して、目的や計画を基に表現している。	美術作品などの表現の工夫や美術文化などを理解し、その美しさを創造的に味わっている。			
評価規準 具体例	①目的、機能、美しさなどを考え、表現することに関心を持っているか。②技法や用具の特性や効果を主体的に生かし、制作の見通しをもって表現しようとしているか。	①デザインの目的や条件、造形的な美しさや調和を考え、制作されているか。②主題を効果的に表現するために形体、構成など工夫して創造的な表現の構想を練っているか。	①技法や材料用具の特性を理解し、目的や意図に応じて、特性や効果を活かして表現している。	①作品のよさや美しさ、作者の意図と表現の工夫の関心を持ち、作品について理解しようとしている。②日本の伝統的な美術の表現の特質や様式、日本の美術文化について「理解しようとしている。			
題材（時間）	学習活動	関	発	創	鑑	評価の方法	教材・教具等
導入（2）	○課題について理解する。 ・着物の文様を鑑賞することで、文化、文様の特徴や美しさを感じ取る。 ・図学を学び、コンパスなどの道具の効果的な利用を学ぶ。	① ②		①	②	・プリント ・発言の様子	・資料 (日本の着物柄古典模様) ・図学 練習プリント
構想（2）	○構想を練る。 ・一班4人単位とし1作品を合同で制作する。 ・円の特性や模様的美しさなど 互いの見方、考えをラフデッサンとして出し合う。	① ②	① ②	①		・プリント ・自己評価カード	
制作（6）	○作品制作する。 ・互いのラフデッサンから取り入れる部分話し合い、一つの作品とする。	②	① ②	①		・自己評価カード ・班評価カード	
発表準備（2）	○鑑賞する。 ・他の班の作品を鑑賞し、制作意図を読みながら、班内で互いにその良さや改善点などの意見交換を行う。 ・評価は、各班から意見を出し合い、話し合いのもと、全班共通の観点で	①			①	・班活動の様子 (発言・役割など) ※観点別学習状況の評価	・班別の作品コピー 

評価規準  
具体例

①目的、機能、美しさなどを考え、表現することに関心を持っているか。②技法や用具の特性や効果を主体的に生かし、制作の見通しをもって表現しようとしているか。

①デザインの目的や条件、造形的な美しさや調和を考え、制作されているか。②主題を効果的に表現するために形体、構成など工夫して創造的な表現の構想を練っているか。

①技法や材料用具の特性を理解し、目的や意図に応じて、特性や効果を活かして表現している。

①作品のよさや美しさ、作者の意図と表現の工夫の関心を持ち、作品について理解しようとしている。②日本の伝統的な美術の表現の特質や様式、日本の美術文化について「理解しようとしている。

活動のねらい（目的）を明確にする

主体的な学び  
対話的な学び

他者の意見を受容し、課題解決に向けた学習活動

F...色のぬり方は丁寧だが、もう少し濃くぬるとよくなる。  
D...円の車輪部分のぬり方がわかりやすい色のぬり方をしていた。  
G...全体的にキレイだが、もう少しオリジナリティがほしい。



## 芸術（書道）

### 1 高等学校学習指導要領の改訂に向けて（中央教育審議会答申より）

#### (1) 改善の方向性

##### ア 現行の学習指導要領の課題

中央教育審議会答申では、芸術科（書道）の課題を次のように整理している。

- |  |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"><li>・書の伝統と文化を踏まえながら、生徒が感性を働かせて、表現と鑑賞の相互関係を図りながら能動的に学習を深めていくことの充実</li><li>・書への永続的な愛好心を育むことの充実</li></ul> |
|--|

##### イ 課題を踏まえた芸術科（書道）の目標の在り方

芸術科（書道）で育成を目指す資質・能力については、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性」が三つの柱として示され、それらが相互に関わり合いながら一体となって働くことが重視されている。このため、必ずしも、別々に分けて育成したり、「知識・技能」を習得してから「思考力・判断力・表現力等」を身に付けるといった順序性を持って育成したりするものではないことに留意する必要がある。また、「知識」については、一人一人が感性などを働かせて様々なことを感じ取りながら考え、自分なりに理解し、表現したり鑑賞したりする喜びにつなげていくことが重要である。「技能」についても一定の手順や段階を追って身に付く個別の技能のみならず、変化する状況や課題に応じて主体的に活用できる技能として習熟・熟達していくということが大切である。

#### (2) 具体的な改善事項

##### ア 教育課程の示し方の改善

芸術科（書道）においては、育成する資質・能力と学習内容との関係を一層明確にしていく観点から、表現及び鑑賞の活動に共通して働く内容を、書を構成する要素とそれらの相互に関連する働きを捉えることとして位置付けており、これは「書に関する見方・考え方」とも深く関係している。

これらを支えとして、表現領域では知識や技能を活用して自ら構想して表現を工夫していくこと、鑑賞領域では創造的に味わうことを通して書の伝統と文化について深く捉え、文字や書の効用を生活や社会の中で生かすことが大切である。

##### イ 教育内容の改善・充実

生徒が芸術を学ぶことを通して感性等を育み、日本文化を理解して継承できるようになるためには、なぜ学ぶのかという実感的な理解を深めていくことが重要であることから、学習したことが、これからの自分たちの生活の中で生きてくる実感を持てるよう、指導の改善・充実を図ることが求められている。特に言語活動は、表現や鑑賞を深めていく際に重要な活動であり、芸術系教科・科目の特質に応じた充実を図ることが求められる。

ウ 学習・指導の改善充実－「主体的・対話的で深い学び」の実現－

(ア) 「主体的な学び」の視点

「主体的な学び」の実現のためには、自己の作品の構想段階から完成に至るまでの作品の変容を実感的に確認し、新たな見通しを持ちながら次の表現へと展開することが大切である。また、書のもつ良さや美しさを創造的に捉え、自分の生活と関連付けるなどの活動の充実を図り、振り返ることで、次の学びにつながっていくことが重要である。

(イ) 「対話的な学び」の視点

「対話的な学び」の実現のためには、感性を働かせて、書を構成する要素の関連を捉え、作品について感じたことを確かな言葉で伝えるなどの言語活動を通して作品の意味や価値を考えることが重要である。

(ウ) 「深い学び」の視点

「深い学び」の実現のためには、中学校国語科（書写）の学習を発展させ、「書に関する見方・考え方」を働かせて芸術としての書と関係付けて創造的な活動を行うことが大切である。また、表現を工夫していく表現の能力と、創造的に味わう鑑賞の能力を相互に関連させながら、育成を目指す資質・能力を着実に身に付けていくことが重要である。

【芸術科（書道）の「見方・考え方」】

感性を働かせ、書を、書を構成する要素やそれらが相互に関連する働きの視点で捉え、書かれた言葉、歴史的背景、生活や社会、諸文化などとの関わりから、意味や価値を見いだすこと。

2 資質・能力を育成する学習指導の改善・充実

「主体的・対話的で深い学び」の実現には、アクティブ・ラーニングの視点を、どの場面で活用しているかを意識し、教材の選択や扱いについても綿密な計画を図る必要がある。ここでは、3・4時間～13・14時間の場面で **B 対話的な学び C 深い学び** を実施した指導計画と、「7・8時間」の指導案の例を示す。

＜単元における指導と評価の計画の例＞

科目名	書道 I			
単元名	漢字仮名交じりの書 【漢詩（書き下し文）を活用した漢字と仮名の調和を図ろう】			
単元の目標	(1) 漢詩を題材とし、書き下し文を書作品に反映させ漢字と平仮名の調和を図ることができる。 (2) 古典(隸書)における歴史的背景を理解し、漢字と仮名の調和を工夫し構想することができる。 (3) 古典(木簡)における歴史的背景を理解し、卒意の書を生かし表現することができる。 (4) 古典(木簡)を基軸に、漢詩の内容を踏まえ、自己の意図に基づいた書表現を目指し、創作活動への関心を向上させることができる。			
評価の観点	関心・意欲・態度 【観点Ⅰ】	書表現の構想と工夫 【観点Ⅱ】	創造的な書表現の技能 【観点Ⅲ】	鑑賞の能力 【観点Ⅳ】
内容のまとめりごとの評価規準	書き下し文を書表現に転換させ、表現することに関心をもち、主体的によりよい書表現を図ろうとしている。	参考とする古典のよさや美しさを理解し、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。	自らの意図に基づき、全体の構成を思考しながら効果的に技能を活用することができる。	鑑賞と表現は相互に関連していることを理解し、書のよさや美しさを感受することができる。

評価規準 の具体例	①漢詩の内容を十分踏 まえ、積極的に構想を 練り、よりよい表現を 模索しようとしている。  ②主体的な活動を通し て、表現の構想から完 成にいたるまでの充実 感や達成感を味わおう としている。	①隸書（八分・古 隸）・木簡の特徴を理 解し、漢詩の内容を踏 まえた表現を工夫する ことができる。  ②書表現の諸要素を活 用しながら、漢字と仮 名の調和を構想し、効 果的な作品を作ること を目指している。	①漢字と仮名との関 連性を踏まえ、自ら のねらいに合わせて 効果的に技能を活用 し表現することができる。  ②文字群と余白との 関係を踏まえ、全体 の構成、文字の大小、 潤濁等に配慮しなが ら、表現することが できる。	①漢詩の内容を理解 し、その情景や心理 を感受しようとして いる。  ②隸書（八分・古 隸）・木簡の特徴を 踏まえ、互いに作品 の良さを見出すこと ができる。			
題 材 (全16時間)	学 習 内 容		観 点 【Ⅰ】	観 点 【Ⅱ】	観 点 【Ⅲ】	観 点 【Ⅳ】	評 価 方 法
1・2 時 間	○漢詩を詠む。(書き下し文)  ○情景を想像し、自らのイメージを持つ。		①			①	ワークシート①
3・4 時 間	○隸書の書法を学ぶ。① ・八分 ・波磔 ・古隸 ・扁平		B 対 話 的 な 学 び	①			ワークシート② 観察
5・6 時 間	○古隸の特徴を生かした仮名を学ぶ。② ・扁平 ・調和				①		
7・8 時 間	○古隸を踏まえて書き下し文を表現す る。③ ・扁平 ・調和 ・作品 ・書表現の諸 要素			②	②		ワークシート③ 観察
9・10 時 間	○木簡の書法を学ぶ。① ・卒意の書 ・リズム ・歴史的背景			①			ワークシート④ 観察
11・12 時 間	○木簡の特徴を生かした仮名を学ぶ。② ・卒意の書 ・リズム ・調和				①		
13・14 時 間	○木簡を踏まえて書き下し文を表現する。③ ・卒意の書 ・リズム ・調和 ・作品 ・書表現の諸要素		②	②		ワークシート⑤ 観察	
15・16 時 間	作品鑑賞 ・批評会 ・振り返り ・自己評価		②			②	ワークシート⑥ 観察

<学習指導案の例> 本時の展開（16時間のうち7・8時間目）

指導事項	A表現 イ・ウ 及び B鑑賞 ウ・エ		
題材名	漢字仮名交じりの書 「古隸を踏まえて書き下し文を書で表現する」		
本時の目標	古典の特性を活かし、漢文における書き下し文を題材とし、効果的な表現方法を工夫することができる。		
過程	学習内容	生徒の学習活動	指導上の留意点
導入 (10分)	○学習内容 の確認	○前時の学習内容の要点、(古隸の特徴・仮名の特徴について)を確認する。(4分) ○書き下し文に直した、漢字の部分を辞書で書体確認する。(2分) ○古典を参考にし、半切に書くことを指示する。(2分) ○書いた作品を、全体で鑑賞し効果的な表現に近づけたか、グループ批評を行い検証する。(2分)	・準備や計画性を持って取り組んでいるか確認する。
展開 (70分)	○制作	○ワークシートに、書き下し文を書く。 ○半切に、書き下し文を書で表現する。 ・古典(古隸の特徴)を活かし、仮名との調和を図る。 ・書表現の諸要素を効果的に活用する。	・作品制作の様子に目を配り、漢字と仮名の調和に課題を抱えている生徒に支援を行う。
まとめ (20分)	○作品批評 会 ○感想	○各自の作品意図を明らかにし、まとめる。 ○グループになり、他の作品について批評を行い、効果的な工夫がなされているか検証する。	・生徒作品の良さ、美しさ、意図、表現方法などを感じ取り、理解できているかを確認する。

漢字仮名交じりの書③

春 曉 孟浩然  
 春眠不覚曉  
 処処聞啼鳥  
 夜來風雨聲  
 花落知多少



古典【石門頌】を参考に

1

書き下し文の中の傍線部を、辞書を使って書体を調べてみよう。

春眠曉を覚えず処処啼鳥を聞く

発展

傍線部は、辞書を活用し、書体を確認させるなど対話的な学びを生かしながら、指導を加えていく。

2

「春眠曉を覚えず・処処啼鳥を聞く」を古隸調で、仮名と調和させてみよう。



古典（古隸）を生かし、結体を捉えながら、感性を働かせ、深い学びへと繋げる。

仮名をどのようにしたら、全体との調和を図ることが可能か、対話的な学びを通して、検証していく。